

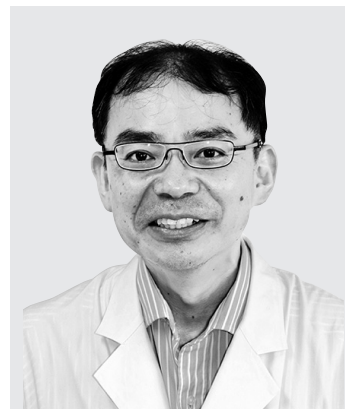
見なおそう!

みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No.24

「力が入らない」時は神経内科!



神経内科部長
山下 博史 (やました ひろふみ)

神経内科は、文字通り神経系の病気を内科的に治療します。対象は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉など広範に及びます。

今回は、比較的多い「力が入りにくい」という主訴から、どのような病気が隠れているのか説明します。

足に力が入らなくなった場合は、脳梗塞や脳出血が疑われるので、一刻も早い診断・治療のために救急受診が必要です。脳梗塞超急性期には

腕の筋力が低下する場合は、筋炎という筋肉の炎症の病気で、週単位で両足や両

筋無力症と診断でき、迅速にステロイド投与や免疫グロブリン治療を行います。

患者さんからは「動きやすくなりました」と喜んでいただけることが多いです。

これらの症状に心当たりがあれば、かかりつけ医への受診をお勧めします。当科では、受診して良かったと思っていただけのように、最善の治療を目指しています。

患者さんには、必ず主要な症状の訴え(主訴)があります。当科で多い主訴は、「しびれ」「ふらつき」「力が入りにくい」「歩行困難」「呂律がまわらない」「意識をなくす」「けいれ

力が入らない場合、次に重要になるのが、それがどのように(突然なのか、徐々になのか)出現し、どのような経過なのか、ということ

また、両方の手足が日単位で力が入り

中で変化する場合、特に日中動いた後の夕方から夜にかけて力が入りにくい場合、夕方にまぶたが下がってきたり、物が二重に見えたりします。ある薬を注射すれば症状が正常に改善する場合、重症筋無力症と診断できます。この病気は、進行すると呼吸停止になることもあるため、迅速にステロイド投与や免疫グロブリン治療を行います。

数年「アイス・バケツ・チャレンジ」というチャリティ活動で有名になった筋萎縮性側索硬化

症(ALS)も、腕や足に力が入らないことから診断されることが多いです。難病中の難病ですが、患者さんの生活の質を少しでも向上できるように、地域の医療機関の先生方と密接に連携しながら診療しています。

「しびれ」「ふらつき」「力が入りにくい」「歩行困難」「呂律がまわらない」「意識をなくす」「けいれ

また、両方の手足が日単位で力が入り

手で力が入りにくい症状が、一日の

動きにくいことを、力が入らないと表現される場合もあります。動作が遅く、前屈みで小刻み

数年「アイス・バケツ・チャレンジ」というチャリティ活動で有名になった筋萎縮性側索硬化

症(ALS)も、腕や足に力が入らないことから診断されることが多いです。難病中の難病ですが、患者さんの生活の質を少しでも向上できるように、地域の医療機関の先生方と密接に連携しながら診療しています。